

シートベルト打撲に着目し眩暈を解消した症例

～頸部刺絡では改善が見られなかった一例～

積聚太郎

1. 目的

積聚治療では病因として、交通事故による頸椎捻挫を重視する

しかし、交通事故がきっかけだと考えられる症状でも頸部刺絡で改善しないことも経験する

本発表では

交通事故後に発症した眩暈が頸部刺絡で改善せず

シートベルトによる圧迫を受けた箇所への刺絡で症状を解消した例
を報告する

2. 症例① 主訴

主訴

動くと頭がクルクルする眩暈 →吐き気・嘔吐

現病歴

2015年8月26日： フェンスで物損事故。直後には不調なし

8月29日： **起床時に回転性の眩暈**

以降は動くと眩暈が起き、段々と悪化

9月2日： 眩暈によって嘔吐（嘔吐は1回だが吐き気は継続）

9月3日： 来院（本報告では便宜上1診目とする）

3. 症例② 患者データ

43歳女性、小学校教員

既往歴・社会歴

- 12歳 : 虫垂炎手術
- 中学生～高校生 : 陸上部（長距離走）
- 16歳頃 : ストレス性胃炎が習慣化
- 22歳 : 小学校に教師として赴任
- 29歳 : 結婚
- 33歳 : 出産（逆子で帝王切開）
- 42歳 : 胃炎を主訴として来院（2014年10月6日）

4. 結果

1診目（2015年9月3日）

切診：脈速 60回／分。両側のSCM・Mb・BL39、CC3に圧痛

施術：基本治療 + **CC3に刺絡**

経過：**眩暈に変化なし**

2診目（2015年9月14日）

問診：**眩暈は頻度・強度ともに変わらず**。吐き気・嘔吐はなし
事故後から左の胸膈下部に痛みがあることを思い出した

切診：脈速 64回／分。両側のSCM・Mb・BL39に圧痛

施術：基本治療 + 左GB24周辺の最も圧痛の強い箇所（第7肋骨）に刺絡

経過：**眩暈・吐き気の再発なし**。受療後2日間は全身が筋肉痛のようだった

5. 考察① GB24について

古典による考察

主だった古典籍に眩暈と関連する記載はない

経絡による考察

胆経は耳中に流注するが、胆経による病象の所見は他にない
＝胆経の是正による結果である可能性は低い

解剖による考察

肋間神経支配　＝眩暈に関係する神経への作用はない

⇒**GB24特有の理由で眩暈を解消できたわけではない**

6. 考察② 外傷

1 診目 頸部刺絡 → 眩暈に変化なし
= 頸椎捻挫が眩暈を引き起こしたわけではない

2 診目 GB24刺絡 → 眩暈を解消し再発なし
= GB24への外傷が眩暈を引き起こした可能性

交通事故がきっかけで発症した眩暈ではあるが

頸椎捻挫だけでなくシートベルトによる肋骨圧迫が打撲として影響したのではないか

7. 結語

交通事故がきっかけとなる症状が
頸部刺絡を施しても改善しない場合

シートベルトによる圧迫も打撲となり外傷として影響している
と考慮することも有効であると考えられる